



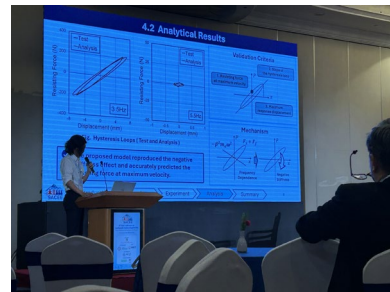
Pick Up News

GWも終わり、前期も折り返し地点を迎えました。1年生は大学生活にも少しずつ慣れてきた頃でしょうか。4年生は就職活動や進路検討が本格化する時期となっています。今年度は、昨年以上に建設・建築関連企業の採用活動が早期化しています。インターンシップ参加を経た早期選考も増えており、4年生はもちろん、2・3年生も早い段階から自分の目標や進路を意識して行動することが大切になってきています。また、建築学科では「大学院進学」も進路の一つとして定着しつつあります。春季推薦（4年生5月出願）で進学した場合には奨学金制度もあり、実質的には国公立大学よりも学費負担が小さくなるケースもあります。「6年間で建築を学ぶ」という考え方も、これからの時代には自然な選択肢の一つです。建築学科には大学院に進学した先輩も多くいますので、実際の話聞くこともできます。「大学院についてもっと知りたい」「進学について相談したい」という人は、ぜひ遠慮なく相談してください。今月号では大学院生の活動も紹介していますので、参考にしてみてください。さて、5月からは学科公式Instagramで、在学生サポーターによる投稿も始まっています。学生目線での学科での学びや大学生生活など、これまで以上に“見て楽しい・読んで楽しい”内容になっています。ぜひフォローしてください！

— 大学院生の活動 — アジア地震工学会で研究成果を発表

本学大学院建築学専攻の大学院生である高橋辰弥さん（博士後期課程2年）、大沼奏多さん（博士前期課程2年、いずれも船木研究室所属）が、ナパールで開催された国際会議「アジア地震工学会」において、研究成果の論文発表を行いました。本会議は、地震工学分野におけるアジア地域最大級の学術会議の一つであり、各国の研究者・技術者が参加し、最新の研究成果について活発な議論が行われます。高橋さんは、開発中の「慣性質量効果を有する液流ダンパー」に関する研究について、大沼さんは、常時微動測定に基づいた伝統的木造住宅（古民家）の振動特性に関する研究について発表を行い、発表後には国内外の研究者との質疑応答や意見交換を通じて、多くの知見を得る貴重な機会となりました。今回の発表は、日頃の研究成果を国際舞台で発信するとともに、研究内容を客観的に見つめ直す契機となり、今後の研究の発展につながるものとなりました。本学科では、今後も国際会議での発表や海外との研究交流を積極的に推進し、学生の研究力および国際的視野の向上を図ってまいります。

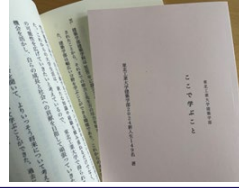
- 発表論文タイトル
- ① Vibration Response Characteristics of the Scaled Frame Specimen by means of the Liquid Damper with Inertia Mass Effect
 - ② Dynamic Response Characteristics of Traditional Japanese Wooden Houses Based on Microtremor Measurements



— 建築を学ぶ、その想いを一冊に —

今年も、新入生174名全員の声を集めた冊子「ここで学ぶこと」を発行しました。建築を学びたいと思ったきっかけや将来の夢、大学生活への期待など、その内容には一人ひとりの個性や思いが込められています。同じ建築学科に入学しても、興味のある分野や目指す将来像はさまざまです。そのような多様な価値観や個性を持った174人が集まっているからこそ、本学科の大きな魅力であり、これからの学生生活をより豊かなものにしてくれるはず。これから始まる4年間では、楽しいことだけでなく困難に向き合う場面もあるかもしれません。それでも、入学したときの初心や「ここで学びたい」という気持ちを忘れずに、それぞれの目標に向かって成長して欲しいと思います。

(学部長・船木尚己)



5月から在学生が学生目線で情報発信してくれています。5月18日現在のフォロワー数は1,106名。皆さんの積極的なフォローをお願いします！

Pick Up Lab.

建築デザインを研究する福屋研、今年はアジャイル形式でプロジェクトごとに自由に活動しています。自由を基本に、苦手なことに自発的にとりくんで力をつけます。①台湾・国立成功大学と東北大学の国際建築WSに修士2年阿部晴登が参加。②よろこ先輩A面B面レクチャーを開催。フランス・パリの田根剛アトリエで働く山崎健太郎さん、仙台の組織事務所働く渋谷昂平さんに質問会。③！設計ブートキャンプ！開催中。3時間で発想から形（模型）のバリエーションを5つ作る力を鍛えます。だれでも参加できるので、興味ある人は福屋研研究室までどうぞ。先輩と一言話すと、学びがたくさんありますよ。



台湾・国立成功大学国際建築WS発表

山崎健太郎さん (Kentaro Yamazaki)

建築 博士
専攻 建築
研究領域 建築設計
所属 建築学専攻

◎ 2017 Fukuoka Institute of Technology High School
◎ 2017-2022 Tokyo Institute of Technology-Bachelor Shokei Fukaya Lab
◎ 2022-2024 Tokyo Institute of Technology-Master Shokei Fukaya Lab
◎ 2022-2023 Shokunin Architects & Co., Architectural
◎ 2020-2021 Kanoya Design + Space Architects / OAHNA Tokyo/Paris
◎ 2019 ATTA Atelier Transparence Team Architects Paris/Tokyo

◎ 2024年 建築設計 17 建築設計 17 建築設計 17
◎ 2024年 建築設計 17 建築設計 17 建築設計 17
◎ 2024年 建築設計 17 建築設計 17 建築設計 17
◎ 2024年 建築設計 17 建築設計 17 建築設計 17

山崎健太郎さんの自己紹介

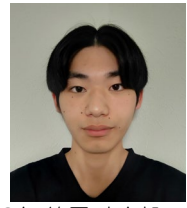


3年 今泉 佳奈さん
郡山高校 出身

Pick Up Student

大学生活も後半に入り、3年次からはより専門的な授業が増えてきたことを実感しています。これまでの設計課題では、自分のイメージを実際の形に落とし込むことの難しさを痛感しました。例えば美術館の動線計画など、条件を満たしながら設計することの厳しさを学ぶ毎日でしたが、その試行錯誤も一つの経験になったと感じています。

現在は、形を作る設計そのものよりも、空調や照明など、人が過ごすための「快適な空間づくり」を支える設備や環境の分野に興味を持っています。3年後期は研究室選びの時期でもあり、自分の興味がどこにあるのかを模索している最中です。残りの学生生活も、自分なりのペースで学びを深め、納得のいく進路を見つけていきたいです。



2年 篠原 瑛太郎さん
創学館高校 出身

Pick Up Student

東北工業大学に入学して早くも1年が経過しました。昨年度を振り返ると、10月に催された藤本壮介氏講演会の参加が、私自身の良い機会になったと思います。この頃の壮介氏は、大阪・関西万博の大屋リング設計者として注目を浴びていました。そのため、最前線で活躍している建築家を目の前に話を聴けた事がとても嬉しく貴重なものになりました。話の中では、「美しい空間とは何か」や「学生時代の良かったと思う経験」などについて触れ、なるほどと感じさせられる場面が多くありました。私は、もう一度仙台で同じような講演会が開催されるならぜひ行きたいです。そして、そこで味わえる感動と一緒に建築をより深めていきたいです。